

# 第9回熱帯林行動計画（TFAP） 林業アドバイザー会議の報告

黒 木 亮

## 1. はじめに

アメリカ合衆国ワシントン D.C. において、平成元年11月27日（月）～12月2日（土）にかけて、第9回 TFAP 林業アドバイザー会議が開催された。本会議は、アメリカにおける初めてのアドバイザー会議であり、昨年の我が国で開催された第7回会議に次ぐ、ヨーロッパ以外の地域での開催であった。今回の開催のホスト機関としては、世界銀行と USAID であり、主として世界銀行の会議場で開催され、サテライト・ミーティング等は USAID のある国務省のビルで開催された。

参加者は主要ドナー、途上国、NGO であり、今回は特に NGO の参加が目だった。

## 2. 会議の概要

11月27日（月）午前 TFAP アジア地域サテライト会合が世界銀行の会議室において開催された。世界銀行による歓迎の挨拶により開会された。

その後、アジア太平洋地域の TFAP 策定状況について、FAO、アジア開発銀行、世界銀行から報告がなされた。主として策定への意見交換が行われ、今後林業分野に対する投資の促進策について討議が行われた。最後にそれぞれの活動についてより一層の緊密な連絡調整の必要性が確認された。午後、国務省において主要先進国による事前会合が行われ、翌日からの議事次第に対する意見がだされた。

11月28日（火）世銀会議室において、第1日目が開催された。R. ロバート議長による開会の挨拶があり、その後、ホスト機関として、USAID、世界銀行、USDA 山林局より歓迎挨拶が述べられた。その後、TFAP 報告、熱帯林開発委員会及び英国連邦林業委員会における TFAP に関する討議の報告、関連する国際会議の宣言等、最近のラウンドテーブル3の報告及び討議（ペルー、カメルーン、コロンビア、ボリビア）、実施中の TFAP 調査団の報告及び討議（パプアニューギニア、ザイール、ジャマイカ）、最近始められた TFAP 活動の報告及び討議、新 TFAP パンフレット（案）に関する意見交換が行われた。

---

KUROKI, Ryo : Report on the Ninth Meeting of TFAP Forestry Advisors Group  
林野庁指導部海外林業協力室

11月29日(水)の午前中、TFAPの運営上の観点について討議が行われた。ヘーリング調整官より、TFAP実施上の課題のレビュー、調整事務局の能力とTFAPパートナー間の相互協力、基本理念と指標、結果の評価とモニタリングについて報告の後、意見交換が行われた。また林業情報としてFORISに関する紹介がUSAIDより行われ、その後質疑がなされた。国家計画実施上のメカニズム、TFAP:制度的メカニズムの強化の必要性について報告があった。午後は、TFAPへのNGOの参加について報告が行われた。

ドミニカ共和国におけるワークショップの報告(T.フォックス)、TFAPプロセスにおけるNGOの役割(S.サージェント)、NGOとともにフィールド経験(S.セイヤー)、NGOと開発のための保全(C.エリオット)、TFAPの計画及び実施におけるグラスルートNGOの効果的な参加(R.シャルマ)、現地住民の参加(E.ナグクアブ)についてNGOの代表による報告の後、討議が行われた。

11月30日(木)の午前中、TFAPミッション計画とフォローアップ、TFAP林業アドバイザーの役割とマナートとその会合の持ち形について討議が行われ、午後にはパブリックセッションが行われた。

12月1日(金)は、会議の最終日であり、林業研究:CGIARの状況とフォローアップ、西アフリカ林業レビュー、ITTO報告、TFAPにおけるWFPのもつ役割、次回の予定について討議が行われ、アドバイザー会議が閉会された。

午後は、アフリカ林業開発委員会(CFDA会合)が開かれ、アフリカ国別協力事情の情報交換が行われた。

12月2日(土)CFDA会合の第2回目が行われ、世銀等の開発銀行をCFDAに招くべきであるという事で、意見がまとめられた。

12月4日(月)世界銀行環境部及びUS山林局と打ち合わせを行った。

### 3. 総合所見

国別TFAP策定要請国が70か国となり、この円滑な推進が重要な課題となっている。このような中で、TFAPユニットの強化、TFAP実施上の課題等について、色々な意見がだされた。今回のアドバイザー会議の特徴は、特にNGOについての討議であったと考えられる。草の根レベルの協力の重要性が認識されており、積極的にNGOを参画させるべきであると考えられてきているものの、現実にはNGOの参加については困難な点も多く上げられている。今回は、代表的なNGOより活動の状況報告をさせるなどNGOとTFAPについて焦点をあてて議論がなされた。しかし、今回の議論の中で特に新しい考え方が出されたとは考えられず、これまでの延長線上にあると思われる議論であった。ただし、NGOとしては、会議の中で一定の時間をさいてNGOについての討議をしたことについて、評価していると思われる。我が国としても、今後、NGOの参加のあり方に対する検討が重要になってくると考えられる。また、TFAP事務局の強化の中で、アドバイザー会議の性格づけが討議の対象となった。今回の中で新たな持ち方は出されていないが、今後検

討すべき課題としては出されている。例えば、現在のアドバイザー会議は、年に2回持たれているが、1回ではどうか。ヨーロッパを中心として、昨年は日本、今年はアメリカで開催してきたが、今後もこのようにしていくのか、あるいは熱帯地域の国においても開催するのか。途上国や NGO の参加を促進させているが、このままであれば参加者の数は増大してきているが、今後とも増大させるのか。アドバイザー会議の取り上げるべき課題は、これまでと変えるべきかどうか。これらの課題が今後に持ち越されている。

---

#### 海外林業研究会総会等のお知らせ

第4回海外林業研究会総会及びセミナーを下記により開催しますので御案内します。

1. 総会

- (1) 日 時 平成2年1月31日(水)午後5時45分から6時30分まで
- (2) 場 所 林野庁第1, 2, 3会議室(農林水産省7F 講堂正面)
- (3) 議 題 ①平成元年度事業実施報告 ②平成元年度会計報告  
③平成2年度事業計画審議 ④平成2年度予算案審議  
⑤平成2年度役員選出 ⑥その他

2. セミナー

総会当日の午後3時から5時まで海外林業に関するセミナーを同会場で行います。